



TE-500N

TE-500-ON

TE-450N

TE-400BL

職人が選ぶ器TEシリーズ

今ではすっかりギターの中の王者とも言える位置についたエレキギター。その歴史の中で先駆者として画期的な役割を果たした不変・不滅のギター。TEモデルです。あくまでもブリリアントでクリアなトーン、何の無駄もないシンプルな機能を使いこなし、時のプレイは、他のギターでは得られないぶし銀の味を見せつけます。ロイ・キャノン、ジミー・ペイジ、ノーキー・エドワード、バック・オーエンス—こうした職人ギタリストたちが固執する理由です。PRO IIのTEシリーズは、次の時代のギター職人たちのためにラインアップされたギターたちです。

TE-500はハムバックングPUをつけたシンラインモデル。センポディー、メープルワンピースネックの仕様。TEシリーズの中でも最も巾のあるトーンレンジで、Lシリーズ系とは違ったはげれの良いクリアなハムバックングサウンドが得られます。カラーはナチュラルNのみ。 ¥50,000

TE-500-ONは、同じシンラインボディでもオールドスタイルです。マホガニーボディにシングルコイルPUという組合せが洗練されたサウンドを生み出しました。もちろんメープルワンピースネックでオールディーンラッカーフィニッシュをしています。PRO IIならではのクロウト好みのモデルです。カラーはマホガニーナチュラル(ON)のみ。 ¥50,000

TE-450は、TEシリーズの中でも最もオーソドックスな本格派です。プロIIファンの熱心な投資が生んだモデルで、アルダー単板ボディ、メープルワンピースネックという中味の濃い仕様。結れたクリアトーンでオールドスタイルらしいサウンドになっています。ジム・メッシーナの使用するナチュラルNのラッカーフィニッシュです。 ¥45,000

TE-400は、メープルボディ、メープルネックのスタンダードなTEモデルです。TE-450とは違って、ブライトでクリアなバツカルサウンドで、TEモデルらしい味があります。カラーはブロード(BL)。 ¥40,000



JB-800JN

JB-600N

JB-500S

JB-450S

全てをアンサンブルするベース JBシリーズ

ベースマンには二つのプレイが要求されます。バンドのトータルサウンドの要として演奏にノリをつけ、セクションをキメるアクティブなプレイと、逆にステディにリズムをキープし、アンサンブルしてゆくオーソドックスなプレイ—前者がP.B.シリーズに向いているとすれば、JBシリーズは、後者のタイプのベースマンに向いているかも知れません。ナット部40mm巾のスリムなネック、ダブルポールピースのワイドレンジPU×2、2V・1Tの仕様はシンプルながら、巾のある使い分けができます。ハードな重低音、軽くレスポンスの良い中・低音、甘くノビの良い低音と音作りのできるサウンドの巾がJBシリーズの魅力です。

JB-800は、ネックからP.U.にいたるまでオー

ルドを徹底的に追求したスーパーベース。プロベースマンをうならせたハカラダ指板のワンピースネックはドットポジションインレイ、セルまきなしのオールドスタイルです。エナメルコイルを使用したPU「DOUBLE JAZZ」はヒズミのない巾のあるサウンドになっています。ラッカーフィニッシュで、ナチュラルNとサンバースト(S)のニカラー。

¥60,000
JB-600は、セン単板ボディ、メープルワンピースネック、JB-II PUをマウントしたモデルです。JB特有の甘いトーンが評判のサウンドで、白蝶貝のポジションマークをインレイしたネックは、ホワイトバインディングがなされ、滑らかなタッチに人気があります。カラーはナチュラルNとサンバースト(S)でい

づれもローズ指板仕様もあります。 ¥60,000

JB-500は、流れるように美しい木目のセンポディー、メープルネックといった仕様です。大皿にカットウェイされたボディはプレーヤーの身体にフィットし、タッチの柔かい、余裕のあるサウンドです。カラーはナチュラルN、サンバースト(S)、ブロード(BL)。 ¥50,000

JB-450は、JBシリーズの中でも最もコストの押さえられながらも十分に弾き応えのあるモデルです。アルダーボディ、メープルネック、ローズ指板の仕様で、レスポンスの良い重低音はワンランク上のサウンドです。カラーはサンバースト(S)。 ¥45,000

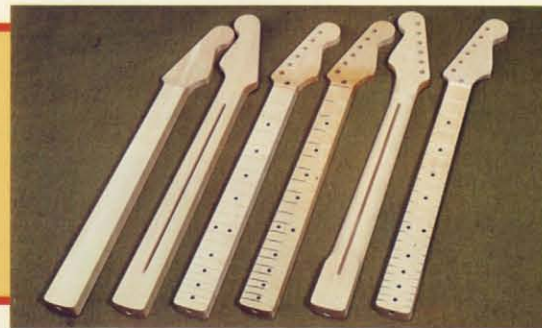
ワンピースネックの話し

ワンピースネックはシングルピースネックとも呼ばれ、ST、TE、PB、JBなど、ディタッチャブルタイプのギターに取り付けられるネックです。材質がメープルであることが音の面でも技術面でもポイントになっています。文字通り、メープルの一本の木から削り出されてできるネックで、ネック部に直接指板としてのアール付加工をしてもいいので、それだけに指板・フレットに精度が高く、プレイヤビリティの高いネックになるのです。PRO IIのワンピースネックには、メープルそのものものと、ハカラダ又はローズ指板のものもあ

りますが、はり指板のネックの場合でも、指板となるハカラダ・ローズは、加工前にベースとなるワンピースメープルとラミネートされ、同様にアール付加工されるワンピース工法をとっています。この点がワンピースネックのポイントなのです。

しかしメープル材はその性質上形而変化が大きく、そのためよくフレットがとび出たり、ネジ曲ってしまったネックのギターが店頭でも見られるのです。PRO IIのワンピースネックの違いはこの点にあります。PRO IIの製造元マツモク工業(株)では、国内で最初にワンピースネック工法を完成さ

せたのですが、それは、1970年のことで、ワンピースネックという言葉さえほとんど知られていなかった時代です。これは、工場の長い歴史にはくまれた精度の高い木工技術、形而変化の大きいメープル材を完璧に乾燥・シーズニングする世界有数の設備、豊富な備蓄、エキスパートの厳格な選別—こうしたギターメーカーとしての真の力が備わって生じて成し遂げられることです。こうして生まれたワンピースネックの精度、耐熱性は、海外の厳しい気象条件の中でも評価が高く、エキスパートモデルが立証しています。この自信のワンピースネックの



中でも、ハカラダ指板のネックはプロIIならではの出色のできばえです。言うまでもなく、ハカラダはギター用材として最高級品で、手ワークランクギターの中でも超高級モデルにしか使用されない材料です。しかも厚さ15mmもあるハカラダ単板を端末では2mmまでに正確なアールを保って削り出したネックで、木目のアレもなく、密で堅いため最高のサウンドとタッチを得られるセイクタなネックです。トップをゆく技術と最高の材料で生まれたネックで、PRO IIのワンピースネックと他との違いを象徴する完成度です。